

研究資料

「教訓いろはたとゑ」の影印と紹介

吉 海 直 人

同志社女子大学
表象文化学部・日本語日本文学科
教授

A Bibliographical Introduction to “KYOKUN-IROHATATOWE”

Naoto Yoshikai

Department of Japanese Language and Literature,
Faculty of Culture and Representation, Doshisha Women's College of Liberal Arts,
Professor

要 旨

いろはかるたの基礎資料として「教訓いろはたとゑ」を入手することができたので、その画像を影印で紹介し、資料として提供したい。ただし掲載されていることわざは、大半が「京いろは」とも「江戸いろは」とも異なっており、従来の分類では収まりきれないものである。その意味でも今後の分析・検討が期待される。

【キーワード】 教訓いろはたとゑ・いろはかるた・浮世絵

【解題】

いろはかるた関係資料の悉皆調査の中で、新たに入手できた「教訓いろはたとゑ」を影印で紹介したい。本資料については「いろはかるた」資料六種の紹介(補遺)「同志社女子大学学術研究年報64・平成25年12月で紹介しておいたので、今回は影印での紹介がメインとなる。

簡単な書誌を紹介すると、大判一枚刷の和紙にいろはかるた仕様の読み札・取り札二枚セットが二組上下に並べられている。それが二十四枚揃いで四十八枚の「いろはかるた」になる。本資料はそれが折り本仕立になっているものである。同志社女子大学図書館所蔵(721.8/U9370)。

各和紙の上部には「教訓いろはたとゑ 豊国画 伊場仙板」とある。成立は嘉永頃とされているが、二十四枚一時期に発行されたのかどうかは未詳。寸法はタテ36.0cm×ヒ24.6cm。一枚のカルタの寸法は、タテ16.4cm×ヨ12.4cm。いろはかるた研究家の時田昌瑞氏は、これを知るために仕立てたものをお持ちとのことである。「いろはかるた」としては最大級の大きさであり、むしろ大きすぎてかるた取りには向かない。

用いられていることわざも特殊なものが多い。「京いろは」とも「江戸いろは」とも異なるものが過半数を占めている。最初の「い」は「祝ひは千年万年」になっているが、通常のかかるたには用いられておらず、同類の「俳優いろはたとへ」(国周画)とのみ共通している。最後の「京」も「京かの子に江戸むらさき」となっており、到底ことわざとは認定しがたい。厳密に言えば、これらは「いろはかるた」(ことわざ)ではなく、「いろはかるた」風に仕立てられた「役者たとえ」と理解しておく方がよさそうだ。逆にこれらを安易に「いろはかるた」に含めてしまうと、従来のことわざによる地域的分類が成立しなくなる恐れがある。

また「ゐ」に「一寸先はやみ」が、「を」に「おんをあだ」が配されているが、こういった仮名遣いのずれに関しては、「いろはかるた」の世界では案外気にされていないようである。

いずれにしても歌舞伎役者の似顔絵が付されたかるたが意外にたくさん存する点、江戸時代におけるかるたと歌舞伎役者・演目との関係の深さが窺われる。源氏物語かるたを含め、この点についての調査が今後のいろはかるた研究の課題であろう。

【翻刻】教訓いろはたとゑ

い	三番叟	祝ひは千ねんまん年
ろ	細川勝元	ろんよりしやうこ
は	熊谷次郎直実	花はさくら木人は武士
に	源蔵女房戸浪	似たものは夫婦
ほ	梅の由兵衛	仏の顔もさんと
へ	庄司娘おみつ	へびのなまころし
と	鰭間宅兵衛	とうにおちず語におちる
ち	梅王女房はる	近しき中にも礼義あり
り	百姓白太夫	律義もの、子だくさん
ぬ	石川五右エ門	ぬす人の昼寝
る	雷庄九郎	るゐは友をよぶ
を	沢井俣五郎	おんをあだ
わ	いがみの権太	わざはひも三年をけば役にたつ
か	大星力弥	かいるの子はかいるになる
よ	名古屋山三	夜目とほめ笠の内
た	新胴娘夕しで	たまにきず
れ	高橋瀬左エ門	良薬は口にがし
そ	万長娘おこま	袖ふりあふも他生のえん
つ	荊屋姫	杖の下へまはる子
ね	鬼ヶ嶽	念にはねんをつかへ
な	後藤兵衛	生酔ほん生たがはず
ら	秋月娘深雪	らくあれば苦あり
む	菅承相	無利が通れば道理ひつこむ
う	小栗宗丹	うそから出たまこと
ゐ	部屋仕お初	一寸先はやみ
の	安達元右エ門	のどもとすぐれば暑わする、
お	曾我五郎時致	思ふねん力岩を通す
く	在原屋業平	くさい物身しらず
や	斧定九郎	やみにてつぼう
ま	稲川治郎吉	負るはかち

け 舎人梅王丸 兄弟他人のはじまり
 ふ 小野道風 文をやるには書手はもたぬ
 こ 浅倉當吾 子は三界のくびかせ
 え 毛刺九右工門 えてに帆をあげる
 て 照手姫 貞女両夫にまみへず
 あ 遠藤武者盛遠 悪に強きは善にもつよし
 さ 大仁坊 三べんまはつて煙草にせう
 き 浦里 聞て極楽見て地ごく
 ゆ 清玄尼 夢はさかゆめ
 め 悪七兵衛景清 めくら蛇におちず
 み 佐々木源之助 身を捨てこそ浮む瀬
 し 浮世伊之助 しらぬがほとけ
 ゑ 萩の屋八重桐 えんはいなもの
 ひ 猿廻し與次郎 びんぼうひまなし
 も 足利光氏 もつたがやまひ
 せ 美人お松 背にはらはかへられぬ
 す 藤屋伊左工門 すいが身をくふ
 京 花川戸助六 京かの子に江戸むらさき

(注) 江橋崇氏「俳ゆういろはたとへ」「大新板やくしや顔にせいろはたとゑ」
 「教訓いろはたとゑ」の翻刻に関する研究」遊戯史研究28・平成28年10月も参照し
 ていただきたい。

【影印】



図2 はに



図1 いろ



図4 とち



図3 ほへ



図6 るを



図5 りぬ



図8 よた

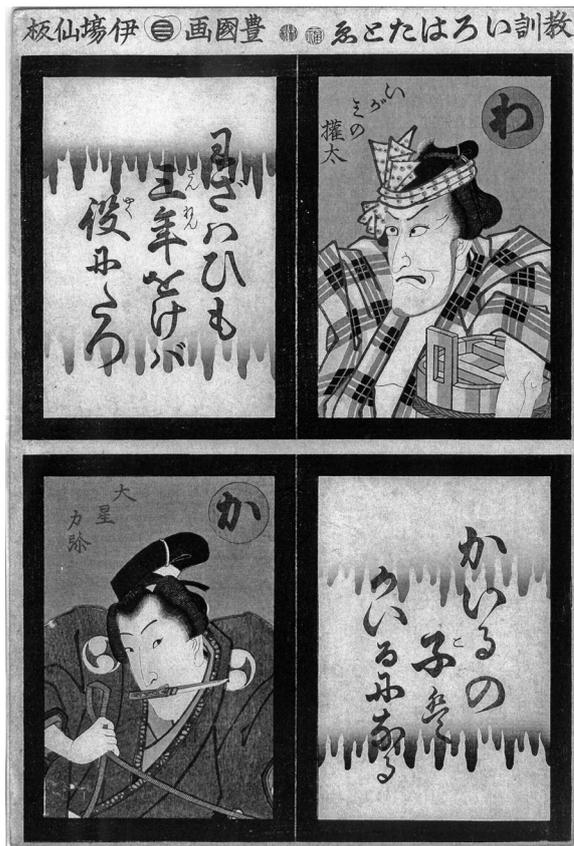


図7 わか



図10 つね



図9 れそ



図12 むう



図11 なら



図14 おく



図13 めの



図16 けふ



図15 やま



図18 てあ



図17 こえ



図20 ゆめ



図19 さき



図22 えひ



図21 みし



図24 す京



図23 もせ

